

令和4年度 事業報告

令和4年度の事業運営について、事業活動の主な成果及び内容と概要を報告します。

【運営面】

本年度は、新型コロナウイルス感染症変異株のオミクロン株感染拡大により、昨年に引き続き利用者家族への面会制限及び職員の行動自粛・届け出の徹底、また、家族参加による園内の諸行事、招待者を交えた会議など地域貢献活動は大きく制限せざるを得ない状況でありました。

職員の感染状況は、幼児や児童・生徒等の感染の影響により、家族からの感染で数名が出勤停止を余儀なくされました。

利用者におきましては、在宅介護サービスを利用される方が感染し、通所介護の営業を1日間休止しました。

特養及びグループホームの入所者には、新型コロナウイルス感染症の対応を行い、内部への感染拡大やクラスター発生も無く、また、職員の健康状態の届出の励行、抗原定性検査キットによる定期的検査を行うなど、感染拡大防止対策の取組みの成果が顕著でありました。

【経営面】

稼働率の目標達成、経費節減努力による経営の安定を目指して運営を行いました。特養は、9月～12月に退所者が集中した為、新規入所の対応が追いつかず空床の増、短期入所・通所介護の利用者に新型コロナウイルス感染症の影響や冬場の寒冷時期に向かって入院の増などによる利用者の減、訪問介護にも同じような現象が見られ、在宅系の利用者の大幅な減少が顕著でありました。また、注目すべき点はさつま町の人口減少の影響もあり、待機者の数が数年前より半減したこと、更には退所後新規の方をご案内してもスムーズな入所に繋がらず、現場は大変苦慮している現状でありました。

【介護人材の確保】

職員の有給休暇の取得向上、処遇改善にも引き続き取り組みました。また、令和4年2月より「介護職員処遇改善支援事業」にも取り組み賃金改善の措置を実施しました。ハローワークや新聞折り込みの求人だけの待ちの姿勢ではなく、専門学校や高校などへの積極的な求人活動と共に、福祉科のある高校の生徒実習受入れも感染対策に配慮しながら、本園への理解を深めてもらう観点から検討する必要があると思います。

【営繕・補修】

施設・設備の更新では、当初予定していた特養浴室改修工事を実施しました。また、特養の床頭台の更新、空調設備の更新、玄関下履き入れの改修工事を行いました。

事業計画に基づき実施した概要については、次のとおりです。

1. 利用者へのサービスの質向上

利用者の日常の介護サービスについて、「明るい笑顔を大切にします」「自分らしい生活を支えます」という基本理念の下、人間としての尊厳を守り、QOLを高めるため動作や表情を掘り起し、共感から尊厳へ多様な視点から介護の方法を追求・検討し、利用者のADLとニーズに応じた介護をめざし、引き続き4項目の施策に取り組みました。

(1) 個別ケア活動の定着化

ア) 事業計画の着実な実行のため、個人目標の実行状況と反省をもとに、部門責任者が職員個々と面談のうえ新年度の個人目標を設定し、「実践的スキルの向上」「プラスワン活動」を継続し個別ケアの向上に努めました。

イ) 「パーソン・センタード・ケア」の「人間の尊厳」を基底として、それを実践するケアを理解するため、外部研修へ参加することはコロナ禍にあり出来ませんでしたが、園内で可能な研修に取り組みました。

ウ) 「ユマニチュード」手法を日々介護業務の中で継続的に実施し、日頃行っている入所者・利用者への寄り添ったケア（目線を合わせる、声のトーンに気を付ける、触れるなど）がユマニチュード手法に沿って出来ていました。特にマスク着用で、介護者の表情が見えにくい点を意識してケアを行って来ました。

エ) 常に利用者の立場に立って良質かつ適切なサービスを提供するため、法律や規程、倫理など社会的ルールを守るとともに、家族や利用者の声を聞きながら日々の業務を振り返りケアの向上を図りました。また、苦情に繋がらないよう利用者や家族の話を傾聴して対応いたしました。

(2) 科学的介護の着実な推進

ア) これまで取り組んでいる五つの重点課題 ①快適な排泄ケア ②口腔機能の向上 ③認知症の症状に見合った介護の追求 ④機能訓練の充実 ⑤看取り介護の充実 について多職種と連携し、一つひとつの事例を積み重ね検証を行い、介護技術の向上に努めました。それぞれの推進状況は、以下のとおりです。

イ) 一人ひとりの利用者の状況に応じた快適な排泄ケア

排泄委員会におきまして、特養入所者の「快適な排泄ケア」（全員トイレ・ポータブルトイレでの排便）をめざして活動していますが、定時やその方に応じた随時のトイレ誘導、食物繊維提供量の調整、適度な水分摂取量の確認及び飲料水の改善・工夫（水溶性食物繊維使用や水分ゼリー、きな粉やオリゴ糖の使用等）を行い排便サポート（スムーズな排便）に取り組みました。

入所者の身体的レベルの重度化は、令和5年3月末現在の介護度4.13（昨年3月末4.01）、トイレ・ポータブルトイレで排泄できる入所者は27名

(昨年22名)、トイレ・ポータブルトイレで排便できない日中おむつ使用入所者は、31名(昨年36名)となりました。また、下剤使用なしの入所者は0名となり、随時のみが2名となりました。

ウ) 口腔機能の向上及び食事サービスの更なる向上

- ① 特養入所者の口腔ケアは、歯科医・歯科衛生士等の指導により、関係部門と連携の下、個人毎の栄養及び口腔ケアプランに基づき、昨年度と同様利用者の食札の裏面や洗面所等に気づきメモを掲示する等、職員が個人毎の介助方法を確認し、口腔内清拭・口腔マッサージ・嚥下体操等に取り組みました。

現在(令和5年3月末)、経管栄養の7名以外は全員経口により食事摂取をされていますが、自力で食事をされる方(見守り・セッティング・服薬介助等は必要)は13名(昨年18名)、一部介助の方は20名(昨年19名)、全介助の方は18名(昨年12名)です。

食事介助には特に細心の注意を払いながら、笑顔で美味しい食事を楽しんでいただけるよう、誠心誠意努力しております。

- ② また、特養入所者一人ひとりの状態観察等に基づき、食事形態の変更や義歯の調整は、ご本人の状態に合わせ随時行いました。

食事形態については特養5種類、普通食13名(昨年11名)、きざみ食9名(昨年12名)、なめらか食27名(昨年26名)、流動食2名(昨年2名)、経管栄養食8名(昨年8名)です。ショートステイは4種類、普通食19名(昨年13名)、きざみ食3名(昨年5名)、なめらか食1名(昨年1名)です。デイサービスは2種類、普通食89名(昨年88名)、きざみ食8名(昨年9名)となりました。利用者ごとの状況変化に応じて、弾力的に対応しております。

- ③ 更に、見た目は普通の食事と変わらず、やわらかくて口の中でまとまりやすくスムーズに飲み込むことができ、そしておいしい「黒田式高齢者ソフト食」の提供を昨年に引続き行いました。

また、離水しやすい「全粥」から離水しにくい「お粥ゼリー」の提供を週1回から徐々に増やし、完全に移行しました。

- ④ 日本摂食嚥下リハビリテーション嚥下調整食学会分類2021(とろみ)については三段階(うすい・中間・濃い)を個人毎の食札の裏に示し、利用者一人ひとりに適したとろみで提供することができました。

- ⑤ スチームコンベクション・真空包装機をフル活用し行事食の提供や災害時や新型コロナウイルスの発生時を想定した非常食1週間分の備蓄(昨年同様)を引続き行いました。

エ) 認知症の様々な症状に見合った介護の追求

- ① 日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難が見られる認知症の利用者は多く、令和5年3月末現在の認知症高齢者の日常生活自立度Ⅲ以上の利用者は特養46名79.3%（昨年74.1%）、グループホーム10名56%（昨年56%）、ショートステイ8名34.7%（昨年39.1%）、デイサービス（要介護）11名11.3%（昨年13.4%）となっています。特に、見守り等において留意しながら介護に努めています。
- ② 嘱託医や専門医療機関等との密接な連携の下で、疾患別の周辺症状（行動と心理症状）の把握とアセスメントを行い、色々な手法（ユマニチュードの手法・音楽療法・回想療法等）を活用して、その症状の緩和の技法を一つひとつ活用しながら、介護のあり方を追求する努力を行いました。

オ) 機能訓練の充実

① 特養入所者

利用者ごとの個別機能訓練計画書に基づき、残存機能の維持向上のために日々の生活の中で理学療法士と連携を図りながら立位保持、座位保持、口腔体操を強化し、一人ひとりに適した機能訓練を実施しました。また、上下肢の拘縮している利用者が増加しているためマッサージ・関節の屈伸運動を行いました。併せて、同一体位による褥瘡の発生を防ぐため、体位変換の工夫やエアーマット等の活用、管理栄養士との協働による、高タンパク質の食材提供など発生の抑制と緩和に努めました。

入所者58名（令和5年3月末現在）の機能状況につきましては歩行1名（昨年5名）（杖歩行・シルバーカー・歩行器・手添え）、車椅子57名（自操13名・介助44名）（昨年53名（自操15名・介助38名））となりました。

以上に伴い、機能訓練加算（12単位/人・日）を取得しています。

② ショートステイ利用者

居宅サービス計画書・施設サービス計画書・ケアチェック表に基づき、残存機能の維持向上のために、一人ひとりの身体機能が在宅での日常生活で生かせるようショートステイ利用中の日々の生活の中で（移乗時、口腔ケア時、対話時等）一人ひとりに適した機能訓練（歩行訓練・立位訓練・座位訓練・体操・メドマー等）を実施しました。

利用者23名（令和5年3月末現在）（昨年23名）の機能状況は自力歩行4名（昨年2名）、歩行15名（昨年13名）（杖、歩行器、手添え歩）、車椅子8名（昨年8名）（自操、介助）となりました。

以上に伴い、機能訓練加算（12単位/人・日）を取得しています。

③ デイサービス利用者

居宅サービス計画・通所介護計画・個別機能訓練計画に基づき、在宅での生活機能（日常生活動作）の維持・向上を目的とする機能訓練（4機種のパワーリハビリ・滑車訓練・立位訓練・平行棒歩行訓練・階段昇降・ストレッチ体操・生き生き体操・足踏み運動）を実施しました。利用者97名（令和5年3月末現在）（昨年97名）の機能状況につきましては、要介護者の58名は自力歩行20名（昨年20名）・杖歩行14名（昨年18名）・歩行器歩行13名（昨年9名）・車椅子自操1名（昨年1名）・車椅子介助5名（昨年6名）、両手添え5名（昨年4名）となっております。

以上に伴い、要介護利用者については機能訓練を提供し、要支援利用者については運動機能向上加算（225単位／人・月）を取得しています。

また、要介護利用者58名（令和5年3月末現在）（昨年58名）のうち、介護度が改善した利用者は2名（昨年0名）、介護度を維持できた利用者が42名（昨年53名）で、低下された方が14名（昨年5名）となりました。

④ グループホーム入居者

グループホーム介護サービス計画書に基づき、生活機能の維持・向上を目的とした生活リハビリ（洗濯物干し、タオルたたみ、清掃、食器洗い等）及び機能訓練（歩行訓練、ラジオ体操）を実施しました。

入居者18名の機能状況につきましては、自力歩行4名（昨年4名）、杖歩行3名（昨年1名）、シルバーカー（手押し車）歩行6名（昨年6名）、車椅子自操5名（昨年7名）となりました。

カ）健康管理の強化と看取り介護の充実

- ① 施設介護3グループの個別ケアの向上により、介護職の特養入所者に対する観察力や気づき等も向上させ、個別事象を昼礼ミーティング等で看護グループに伝えることで、看護グループは症状等の早期把握が可能となり、嘱託医とのスムーズな連携の下、早期発見・早期治療を行い日々の健康管理に努めました。

本年度の退所者数は16名（昨年12名）になりました。

なお、入院者数は14名で昨年度と比較して10名の増となり、入院総日数は昨年度に比べて227日増の331日となりました。

- ② 本年度も看取り介護を実施し、退所者16名の内7名の方に看取り介護を実施しました。なお、看取り介護を希望される入所者は非常に多く、令和5年3月末時点で当園希望者49名、自宅の希望者0名、病院希望者1名、施設・病院複数希望者8名でありました。

穏やかな環境の下、その人らしい生活を送っていただけますよう、随時家族への説明を行い、ご本人とご家族の不安感に対応しつつ、最期の時を安楽に過ごしていただけるよう心のこもった支援に努めました。

(3) 楽しみ・生きがいのための生活援助

別紙2に記載しておりますが、コロナ禍の中で利用者が楽しく過ごせるよう各種のレクリエーション活動（園内散歩、生花教室草花鑑賞、趣味、リハビリ教室、スポーツ、ゲ、ーム、季節的な行事）など可能な範囲で取り組みました。

また、更に安心して楽しく、生きがいを感じ有意義に過ごしていただくため、利用者の潜在能力や意欲を引き出す工夫など、希望・意思・選択等を重視した小グループ活動や余暇活動を積極的に実施しました。

(4) 相談、苦情等への迅速な対応

本年度も利用者及び家族の意見・要望・相談等を積極的に掘り起こす努力を行い、そうした事態に至った場合は誠意をもって迅速かつ適切に対応してまいりました。

本年度の相談・苦情件数は、特養1件、ショートステイ0件、デイサービス0件、グループホーム1件、訪問介護1件、居宅介護支援センター2件の計5件（前年7件）の対応を行いました。

特養及びグループホームでは、コロナ禍で面会が思うように出来ないこともあり、施設での生活の様子を定期的に家族へ写真にコメント付きで連絡し、情報提供を緊密に行いました。また、苦情に繋がらない要望などは、家族や入所者・利用者からしっかり聞き取り、改善事項を伝えました。

(5) 安心安全の確保

ア) 新型コロナウイルス感染症、インフルエンザ、ノロウイルス感染症の防止対策

感染対策委員会を毎月2回開催し、利用者・職員・外来者の状況をフォローするとともに、近隣・地域情報等に留意し防止対策を講じました。

感染症予防では、昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症防止対策を職員にお願いし、家族へは利用・面会等の制限と警戒態勢について理解を求め、併せてインフルエンザウイルス、ノロウイルス等の園内持込み防止に努めました。

新型コロナウイルス感染症対策では、状況に応じて感染対策委員会を開催し、発生状況や地域における行動区分に照応した職員の届出を励行し、通所系事業の利用停止基準などの行動規範に基づいた感染防止対策を強化しました。

また不測の事態も想定し、防護服・マスクの補充、除菌・空気清浄機などの設置を行うなどの対策を拡充しました。BCP事業継続計画による職員配置、物資、食料等多くの分野で、事業所ごとに検討し対応しました。職員にも日頃の健康管理の徹底に努め、園内外、家庭における感染症防止対策の強化を指示し、感染拡大の防止に努めました。職員及び家族の感染は数件確認しましたが、施設内への持ち込み、クラスターは発生しませんでした。

イ) 介護事故防止対策

① 事故件数

本年度は昨年度に比べて2件増の11件（特養6件、ショートステイ3件、デイサービス2件、グループホーム0件）の介護事故が発生いたしました（病院受診の場合、町に対して報告）。

② 事故内容

1) 事故内容につきましては、特養では、6件（転倒・骨折1件・転倒打撲4件・低温火傷1件）、ショートステイでは、3件（転倒骨折3件）、デイサービスでは転倒・骨折1件、誤嚥1件、グループホームでは0件でした。

③ 対応策

基本ルール違反への対策、見守り・声掛け不足への対策、利用者が一人である時の事故防止対策について検討し、「鶴宮園の事故への対応マニュアル」、「介護事故防止の基本ルール」の見直しを随時行い、職員の事故防止対策と併せ事故発生時の対応、本人・家族への対応などについて職員への意識啓発と周知を図りました。

- 1) 基本ルール違反への対策については、全職員に作業実施の直前に基本ルールを思い起こして、声だし等により今一度確認（含む相互確認）し、あせらず実行することを必ず励行するよう強く指導しました。
- 2) 見守り・声掛け不足への対策については、見守り・声掛けを行うケースを具体的に明確化し、職員同士の声掛けを日頃から徹底して業務を行いました。
- 3) 食事摂取時の見守り・声掛け不足への対策については、利用者毎に食事介助上の注意点と対応策を食札の裏に明記し着実に実行しています。特に食事摂取困難者には、その日によって摂取状態が変化しますので、昼礼で情報を共有し職員間で声を掛け合い表情等確認し、丁寧に介助するよう努めました。
- 4) 利用者が一人である時の事故防止については、部屋内の危険個所の防護・ベッドの高さ調整・マットの使用等を行い、利用者の行動・心理症状の変化について把握し、情報を共有し、環境を整え見守りを強化しました。
- 5) 上記の安全の基本ルールの確認と声だし・声掛けの励行のみならず、利用者の様々な思いや行動分析・事故の背景・原因を多職種間で検討し、小さな気づきのヒヤリハットを多く取り上げるよう努力しました。また、積極的な抽出と危険予知など、研修や検討する機会をもち予防対策を講じました。

ウ) 防災（実際と訓練）

梅雨並びに台風襲来時期において、九州南部地域に線状降水帯発生注意報が発表される等災害発生の恐れもありましたが、入所者が避難する状況は発生しませんでした。

防災訓練を特養では、11月23日に昼間の地震発生後事務所給湯室より火災の想定、3月22日は夜間23時出火場所を特定しない火災を想定した訓練（臨機応変の通報訓練・初期消火訓練・避難訓練）を2回実施しました。3月の訓練では、深夜火災のため駆けつけ者に火元の伝達、避難経路指示など臨場感の中で夜勤者の対応力が試された訓練でした。

グループホームでも11月14日に夜間23時1号館トイレからの火災想定、3月30日に昼間11時1号館事務所からの火災想定 of 通報訓練と避難訓練を実施しました。さつま町消防本部の方は、救急対応案件発生のため、急遽立ち会う事ができなくなりましたが、避難訓練立ち合われた運営推進委員の方々より感想・助言をいただき、職員の明確な指示・避難誘導、通報訓練など対応力の向上に努めました。

エ) 交通安全

① 各事業部門ともに利用者の送迎、病院受診等に伴う車両運転にあたり、交通ルールやさつま地区安全運転管理協議会の運動方針遵守のほか、危険予知し自らを守る防衛運転（送迎時のライト点灯、黄色点滅の交差点での速度ダウン・相手の停止確認、三叉路での速度ダウン、カーブでの速度ダウン・身障者の電動車等の確認等）などの「かもしれない運転」に努めました。

また、昨年からは始業時アルコールチェックの実施やドライブレコーダーを軽トラックを除く全公用車に設置したことから、急ハンドル、急加速等のデータをもとに運転評価を行いました。

② セーフティチャレンジ交通安全コンテストに、一般14チーム70人、熟年15チーム30人、高齢4チーム8人の計108名参加し、交通安全ルールの遵守と正しい交通マナーの実践を行いました。一般ドライバー部門2等、熟年ドライバー部門2等、3等、高齢ドライバー特等に当たるなど、安全運転管理事業所として交通事故の抑止効果と含めて安全意識の高揚に大きな成果がありました。

2. 笑顔で明るく楽しい職場づくり

(1) コミュニケーションの向上とチームワークの発揮について

職場に不可欠なコミュニケーション及び心身の健康については、職員同士や利用者に対する言葉遣い・態度について、コロナ禍の中でマスクに隠された表情に留意して笑顔でやさしい対応ができるよう努めました。

(2) 職員の健康管理

① 毎月2回衛生委員会を開催し、職員の健康状況を確認しました。

今年度は特に新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、国内の発生地域移動の際や流行地域の発生状況に応じた職員の対応区分を発生状況の変化に対応させて調整し、発生状況を考慮した届出の励行をお願いしました。また、高齢者施設でのクラスター発生阻止のため、持ち込まない、持ち込ませない、拡げない（3ない運動）と黙食、黙煙、黙浴（3つの黙）の励行、移動の自粛、会食の自粛などをお願いし感染防止に努めました。インフルエンザ、ノロウイルス感染症については、職員から利用者への感染もなく推移しました。

② 定期健康診断は4月28日全職員が受診し、二次健診のフォローアップは産業医に実施していただきました。ストレスチェックは今年で7回目になり、高ストレス該当者は1名あり、産業医の協力を得て希望者の面談を行いました。

(3) 福利厚生の充実

職員のコミュニケーションや憩いの場、忘年会等がコロナ禍で実施出来ないことから、互助会と法人の共催で「お楽しみ抽選会」を実施しました。

(4) 人材育成

ア) 資格取得

①当園の介護福祉士の取得（令和5年3月末日現在）は、施設介護27名、71.0%（昨年85.2%）、デイサービス6名、50.0%（昨年54.5%）、ヘルプサービスステーション4名、57.1%（昨年36.4%）、グループホーム10名、62.5%（昨年64.7%）となりました。

今後、更なる取得率の向上に努めてまいります。

イ) 研修

本年度の研修は、新型コロナウイルス感染症対策のため、県老協・川薩地区老協等が実施する研修のほとんどがオンラインによる研修となりましたが、研修計画に基づき積極的に参加いたしました。また、研修内容は職場内で情報伝達し、業務に活かすよう努めました。

ウ) 人材育成にあたっての今後の課題

介護技術の向上をはじめ、各部門職員の実務能力向上のため多くの研修参加を計画していましたが、感染症対策のため現地での研修が中止や縮小されました。実施された研修は、オンライン研修が主体となりました。

法人内で出来る研修を事業所ごとに、勤務時間内で行うよう調整し実施してまいります。

エ) 5 S運動（整理・整頓・清掃・清潔・躰）の推進

職場の環境整備を基本とし、部門ごとに居室・休憩室など継続して実施し、環境整備委員会委員ほか職員の協力を得て施設周辺及び道路等の草刈りなどの環境保持に努めました。また、保存年限が経過した文書や不要物品等の処分を行いました。

(5) 職員の処遇改善

- ① 令和4年度は、令和4年2月から「介護職員処遇改善支援事業」にも取り組み、介護職員の確保・定着につなげるため、多職種への柔軟な処遇改善に努めました。
- ② 定期昇給は例年通り、令和4年4月1日付で実施するとともに、労働法制の改正に伴い、10月1日より最低賃金の大幅増の改定に呼応して改善を図りました。また、職員への賞与支給時に、嘱託職員・パート職員に一時金の支給を行いました。

3. 地域福祉への更なる貢献

ア) 夏祭りやグラウンドゴルフの開催は、新型コロナウイルス感染症対策のため全て中止し、地域交流は断念せざるを得ませんでした。また、「さつま町夏祭り」「紫尾温泉祭り」など、地域行事も全て中止となりました。

イ) 多様な福祉ニーズに応えられる事業で、さつま町内14法人が加入する「さつまレスキュー事業」の事業運営に引続き協力しました。

ウ) 認知症の方や介護者、一人暮らしの高齢者等が悩みを共有し、専門家と相互に情報を共有できる「認知症オレンジカフェ つるみや」を毎月2回（第2・4火曜日）各部門の職員、オレンジリーダー、民生委員の協力を得て実施する予定でしたが、感染症対策のため開催できませんでした。

代替支援事業として毎月第1・第3水曜日に紫尾地区「寄り合い処 幸」で開催のサロン活動への支援・協力を行い、当園オレンジカフェのサテライト会場として活動をしてきました。

今年度現在も新型コロナウイルス感染症が収束していない為、当園でのオレンジカフェ開催は困難と考えています。昨年度同様の活動を継続していく予定です。

4. これからの経営安定

安定した経営を行うためには、人材の確保が重要です。職員採用は、退職者の補充及び年齢的な均衡を保つため、ハローワークの求人及び職員縁故を通じた紹介、新聞折り込みを含む広報活動を行い、各事業所の現場に応じた人員配置を検討しマンパワーの確保対策を行いました。（別紙報告）

5. 収入の安定的確保

(1) 月次計画検討会（事業活動計算書参照）

月次利用計画を検討する「利用計画検討会議」を開催し、「特養・ショート利用予定者」「施設入所待機者リスト」「居宅介護支援センターの利用状況」「訪問介護の状況」「グループホームの待機者リスト」の報告・検討・進行管理を行い月単位・日単位の利用率の向上・収入の安定確保に努めました。

結果は、決算報告でお示ししましたとおり、特養・短期入所・通所介護・訪問介護などこれまでにない厳しい結果となりました。

収入面では、新型コロナウイルス感染症により、短期入所、通所介護、訪問介護の在宅系の利用者や家族が陽性となり、大幅に利用人数が減少し・収入減となりました。また、特養において、短期間に退所者が多くあったため、多くの空床が発生しました。空床を埋めるための努力を再三行いましたが、待機者を10名前後当たっても入所に結びつかない異常な状態も数か月続きました。

一方、新型コロナウイルス感染症対策として「感染防止対策支援事業補助金896千円、「物価高騰対策支援給付金」が、さつま町1,640千円、鹿児島県1,375千円、令和4年8月から11月までの職員処遇補助金3,537千円の補助金がありました。

支出は、懸案でありました特養の浴槽改修工事、特養の床頭台の更新、空調設備の更新、玄関下履き入れの改修工事、居宅介護支援センターシステム機器の導入などを行いました。

事業活動計算書のサービス活動収益計は467,264千円となり、前期に比べ6,851千円の減となりました。

サービス活動費用計は472,167千円となり、前期に比べ4,727千円減となりました。サービス活動増減差額は4,902千円の赤字（前期2,778千円の赤字）となり、前期に比べ2,123千円の減となりました。

以下のベッド利用率・利用者数等については、添付資料を参照しながら報告書をご覧くださいませようお願いします。

(2) ベッド利用率・利用者数等（別紙1参照）

① 特養・ショートステイのベッド利用率

令和3年4月1日から、特養定員59名、短期入所7名となりましたが、特養の年間退所者数は、昨年度と比べて4名増の16名となりました。特養59床のベッド利用者は、延べ20,980人となり、利用率は97.42%となりました。

ショートステイ7床のベッド利用者は延べ1,762人となり、利用率は長期利用者の入院・死亡が重なり、特養の空床利用による調整を行うも、68.96%と低下しました。

この結果、特養+ショートステイ合計のベッド利用率は94.40%となり、目標値98.5%に対して4%以上も大きく下回りました。

② デイサービスの利用者数

デイサービスの利用者数は、昨年度と同数の97名でした。延べ利用者数は昨年度に比べて延べ687人減の8,746人（昨年度9,433人）となりました。要介護661人減、介護予防36人増、総合事業62人の減でした。令和5年度から通常規模型事業所となります。

③ 訪問介護の利用回数

訪問介護は、利用者数が17名減の34名となり、利用回数は死亡、病院入院や施設等入所などもあり、昨年度に比べて981回減の4,615回（昨年度5,596回）となりました。

④ グループホームのベッド利用率

グループホームのベッド利用は、利用者の入院及び退所後の空床はありましたが、48人増の延べ6,490人（昨年度6,442人）となり、利用率は昨年度と比べて0.73%増の98.78%となりました。

⑤ 居宅介護支援センターの利用件数

居宅介護支援センターについては、利用者数が56人減少し延べ1,254人（昨年度1,310人）となり、月平均利用者数が昨年度と比べて4.66人減の104.5人となりました。

6. 法令遵守（コンプライアンス）、外部監査等への対応

(1) 外部監査等

本年度は以下の監査が実施されました。

① 北薩地域振興局指導監査（令和4年10月4日）

社会福祉施設等概要報告書及び自主点検表により指導監査を実施した結果、おおむね適正に運営されていると認められました。

② さつま町運営指導（令和5年2月16日）

・居宅介護支援センター

是正又は改善を図る必要があると認められる指導事項は特にありませんでした。口頭指導では、重要事項の掲示と加算関係の記入の方法について2点の指導がありました。

・グループホームうらら

1点目は、利用料の受領の表記の修正。2点目は、運営規定に身体拘束等を行う場合の手続きについて記載するよう指導があった。口頭指導では、契約日の記載について指導がありました。

③ 公認会計士による外部監査（令和4年11月16日、令和5年5月22日）

公認会計士による外部監査を年度中間及び年度末の決算状況について実施していただきました。

人件費比率の伸びについては、マンパワーが必要な職種であり国を挙げての介護人材確保の観点からやむを得ないと思料し、72%台は普通と考えてよい。県内どここの施設も人が集まらないため、人件費はどこも上がっている。そのほか、コロナ対策・物価高騰等出費が嵩み収支差が縮まっている。基金の積み立ては、長期計画のもとに実施することが望ましいとのことでした。

また、空調設備の一元化や照明のLED化については、脱炭素・省エネ等の観点から、必要な時期に実施することは、妥当な選択と考えるとの見解でした。

④ 監事による監査（令和5年5月25日）

監事による監査は、①法人関係、②経理関係、③施設運営管理関係、④職員待遇関係、⑤入所者・利用者待遇関係などの項目について監査の結果、法令に基づき、各項目問題点なしで適正な運営がなされているとの講評でした。

(2) 広報紙・ホームページ

ホームページには当園のサービス内容や利用料金等を掲載し、日頃の活動状況や利用者様の日常を紹介するとともに、令和3年度の財務諸表の公表も行いました。8月に広報誌（鶴宮園だより）発行しました。

7. 地域福祉への貢献

(1) 地域との積極的な交流（別紙2参照）

ア) 当園主催行事の開催（全て中止）

- ① 夏祭り ② グラウンドゴルフ大会 ③ 紫尾地区地域懇談会

以上の行事は、新型コロナウイルス感染症対策のため、中止しました。

イ) 地域行事への参加

新型コロナウイルス感染症が収束しない中で、季節の花見（梅・桜・つつじ・彼岸花等）や紫尾神社初詣など、可能な範囲で自然とのふれあい活動を行いました。

ウ) ボランティア活動等の積極的な受け入れ

新型コロナウイルス感染症対策のため、中止しました。

(2) 地域への福祉サービスの提供

- ① 認知症オレンジカフェつるみや(毎月第2・4火曜日)、鶴宮園グラウンドゴルフ大会(年2回)は、感染症対策のため開催は中止しました。

高齢者いきいきサロン・老人クラブや認知症サポーター養成講座へ講師派遣、ケアマネ井戸端会議への職員派遣、薩摩郡医師会在宅医療推進事業会議の派遣、地域福祉部会からの講師派遣、職員の民生委員活動等については、関連の活動について積極的に参加しました。

(3) 在宅介護支援センターの活動

さつま町から委託を受けて8年目となり、委託内容に即し感染対策に配慮しながら活動を行ってまいりました。

活動概要は、関係機関等で開催の会合へ参加65回、各地域のサロン等へ参加29回、地域の方々との交流の場を多く持ち、地域の高齢者・家族からの各種相談を積極的に受け、年間訪問回数94回、介護保険申請代行・福祉サービス利用申請代行等(配食サービス、家族介護用品、緊急通報体制事業等)に対応いたしました。また、多くの介護サービスの発掘・利用にもつなげたところです。

(4) 低所得者への社会福祉法人等利用者負担軽減制度の実施

さつま町が認定する福祉減免対象者について、サービス費・食費・居住費の25%軽減を実施した方は該当なしでした。

9. 全体総括

(1) 総資産額(貸借対照表参照)

令和4年度総資産額は1,140,190千円(前年比△10,692千円)となり、負債の合計72,426千円(前年比△2,096千円)を差引いた純資産の合計は1,067,763千円(前年比△8,595千円)となりました。

純資産の内訳は、基本金331,109千円(前年同額)、国庫補助金等特別積立金56,416千円(前年比△5,798千円)、その他の積立金357,000千円(前年比+22,000千円)、次期繰越活動増減差額323,237千円(前年比△24,797千円)を合計したものです。

(2) 園全体の経常収支差額(事業活動計算書参照)

サービス活動収益は、特養の年間平均介護度4.09(前年比△0.02の減)、特養定員増床、ペースアップ等支援加算などでの増収益はありましたが、退所者16名及び入院等によりショートステイと合せ空床1,348床と大幅な減(前年693)による稼働率の減、通所介護687人減・訪問介護981回減と大きく影響しました。サービス活動収益計では△6,851千円(前年度:9,409千円)の減収となりました。

サービス活動費用については、対前年比で人件費が職員の定年などにより298千円の減、事業費が電気料・燃料費など物価高騰に伴い5,116千円の増、事務費が特養・ショート浴室改修工事を行いました。7,587千円の減、サービス活動費用計で4,727千円の減となりました。この結果、サービス活動増減差額は前年度比2,123千円減の△4,902千円（前年度：△2,778千円）となり、サービス活動増減差額比率は△1.05%（前年度は0.58%）の赤字となりました。

サービス活動外増減差額は、1,879千円減の1,115千円となり、経常増減差額は4,003千円減の3,787千円の赤字となりました。

最終的な当期活動増減差額は、対前年比3,013千円減となり、△2,797千円（前年度216千円）の赤字を計上しました。

(3) 事業部門別の活動収支差額（事業活動内訳表参照）

① 特養

サービス活動収益は、59床変更後の全期間の実績となりました。収入増の要因は、ペースアップ等支援の創出に依る増、減の要因は退所後から入所までの空床期間が長引いたこと、入院期間のベッドの空床が575床（前年389床）と増大したことであり、利用率が97.42%（前年96.31%）となり8,782千円増の253,731千円（前年244,949千円）となりました。年度中盤～終盤に退所者が急増し、これまで順調に推移していた稼働率・収益面に影響し厳しい結果となりました。

サービス活動費用は、249,308千円（前年236,764千円）となり、サービス活動増減差額は4,422千円の黒字となりました。

サービス活動増減差額比率は1.74%（前年3.34%、前前年3.39%）となりました。

② ショートステイ

サービス活動収益は、利用者が793人減、利用率が68.96%と大幅に減少し（前年114.48%）、7,369千円減の26,444千円（前年33,813千円）となりました。

サービス活動費用は、32,281千円（前年38,611千円）となり、サービス活動増減差額は、5,837千円の赤字となりました。

サービス活動増減差額比率は、△22.07%（前年△14.18%、前前年△1.04%）となりました。

⑤ 通所介護

サービス活動収益は、全体的な利用者数が前年比687名減で、内訳は要介護661名減、介護予防36名増、総合事業62名減により、10,675千円減の69,777千円（前年80,452千円）となりました。利用者や家

族に新型コロナウイルス感染、病院入院者の増などの影響を受け、収益面で大きな影響がありました。

サービス活動費用は、68,850千円（前年68,380千円）となり、サービス活動増減差額は、926千円の黒字となりました。

サービス活動増減差額比率は、大幅に減少し1.33%（前年15.00%、前前年は14.09%）となりました。

④ 訪問介護

サービス活動収益は、利用回数が981回大幅な減により、2,948千円減の16,255千円（前年19,203千円）となりました。

サービス活動費用は、16,079千円（前年17,546千円）となり、サービス活動増減差額は、175千円の黒字となりました。

サービス活動増減差額比率は、1.08%（前年8.62%、前前年は2.03%）となりました。

⑥ グループホーム

サービス活動収益は、ベッド利用率が0.73%増加し、稼働率98.78%となり、2,691千円増の78,903千円（前年76,212千円）となりました。

サービス活動費用は、78,946千円（前年92,647千円）となり、サービス活動増減差額は、42千円の赤字となりました。

サービス活動増減差額比率は、△0.05%（前年△21.56%、前前年は△3.75%）となりました。

⑦ 居宅介護支援センター

サービス活動収益は、利用件数が56件減少し、居宅介護支援特定事業所加算Ⅱ・Ⅲの算定により、2,624千円増の19,537千円（前年16,912千円）となりました。

サービス活動費用は、20,641千円（前年16,931千円）となり、サービス活動増減差額は、1,104千円の赤字となりました。

サービス活動増減差額比率は、△5.65%（前年△0.10%、前前年△22.54%）となりました。

⑧ 在宅介護支援センター

本事業については、さつま町からの委託を受け受託事業収益2,615千円（前年2,572千円）。不足分は法人からの支出で運営を行っています。在宅介護支援センターは、町内6地区（虎居、泊野、白男川、平川、紫尾、終野）で、利用者の範囲は、要援護高齢者若しくは要援護になる恐れのある高齢者、又はその家族・親族に対する総合的な相談・支援を行い、将来の利用者の掘り

起し、事務的な申請代行サービスなど支援センターとしての効果・機能を発揮しています。

サービス活動費用は、4,243千円（前年4,016千円）となり、サービス活動増減差額は、1,628千円の赤字となりました。

サービス活動増減差額比率は、 $\Delta 62.26\%$ （前年 $\Delta 56.14\%$ 、前前年 $\Delta 51.57\%$ ）となりました。

令和4年度 特養利用実績

月	日数	定員	日数×定員	実延利用者数 b	ベッド利用率 b÷a	介護度別実延利用者数				
			a			要1	要2	要3	要4	要5
4月	30	59	1,770	1,760	99.44%	0	0	410	840	510
5月	31	59	1,829	1,822	99.62%	0	0	403	892	527
6月	30	59	1,770	1,720	97.18%	0	0	382	828	510
7月	31	59	1,829	1,784	98.09%	0	0	393	884	517
8月	31	59	1,829	1,782	97.74%	0	0	372	891	519
9月	30	59	1,770	1,725	97.48%	0	0	333	900	492
10月	31	59	1,829	1,795	98.14%	0	0	341	927	527
11月	30	59	1,770	1,732	97.85%	0	0	330	892	510
12月	31	59	1,829	1,710	93.49%	0	0	345	901	464
1月	31	59	1,829	1,771	96.83%	0	0	351	955	465
2月	28	59	1,652	1,589	96.22%	0	0	280	883	426
3月	31	59	1,829	1,780	97.32%	0	0	310	922	548
計	365	708	21,535	20,980	97.42%	0	0	4,290	10,715	6,015

R3計	365	708	21,535	20,742	96.31%
R2計	365	800	18,250	17,812	97.60%
R元計	366	600	18,300	18,041	98.58%

令和4年度 短期入所利用実績

月	日数	定員	日数×定員 a	実延利用者数 b	ベッド利用率 b÷a
4月	30	7	210	153	72.83%
5月	31	7	217	152	70.05%
6月	30	7	210	144	68.57%
7月	31	7	217	166	76.50%
8月	31	7	217	162	74.65%
9月	30	7	210	168	80.00%
10月	31	7	217	158	72.81%
11月	30	7	210	142	67.62%
12月	31	7	217	121	55.76%
1月	31	7	217	144	66.36%
2月	28	7	196	144	73.47%
3月	31	7	217	108	49.84%
計	365	84	2,555	1,762	68.96%

R3計	365	84	2,555	2,925	114.48%
R2計	365	192	5,840	5,611	96.08%
R元計	366	192	5,856	5,581	95.30%

令和4年度 全体の利用実績
(特養+短期入所)

日数×定員 c	実延利用者数 d	ベッド利用率 d÷c
1,980	1,913	96.62%
2,046	1,974	96.48%
1,980	1,864	94.14%
2,046	1,960	95.80%
2,046	1,944	95.01%
1,980	1,893	95.61%
2,046	1,953	95.45%
1,980	1,874	94.65%
2,046	1,831	89.49%
2,046	1,915	93.60%
1,848	1,733	93.78%
2,046	1,888	92.28%
24,090	22,742	94.40%

24,090	23,667	98.24%
24,090	23,423	97.23%
24,158	23,622	97.79%

(参考資料 特養:令和5年3月31日現在 ショート:令和5年3月現在)

1. 年齢構成

(特養)

	59~74歳	75~79歳	80~84歳	85~89歳	90~94歳	95~99歳	100歳~	計	最高	最低	平均
男性			1	3	2	1		7	96	83	89.0
女性	1	1	3	12	19	12	2	51	109	59	81.3
計	1	1	4	16	21	13	2	58			81.0

(ショート)

	60~74歳	75~79歳	80~84歳	85~89歳	90~94歳	95~99歳	100歳~	計	最高	最低	平均
男性	0	0	1	2	3	1	1	8	101	83	79.8
女性	0	0	2	4	6	5	0	17	99	83	85.8
計	0	0	3	6	9	6	1	25			83.9

2. 出身市町村別

(特養)

	旧鶴田町	旧宮之城町	旧薩摩町	旧那答院町	その他	計
男性	3	3	1		0	7
女性	25	26			0	51
計	28	29	1	0	0	58

(ショート)

	旧鶴田町	旧宮之城町	旧薩摩町	旧那答院町	その他	計
男性	1	7	0	0		8
女性	5	12	0	0		17
計	6	19	0	0	0	25

3. 要介護度別利用者数

(特養)

月	介護度別利用者数					合計	平均介護度
	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5		
4月	0	0	14	28	17	59	4.05
5月	0	0	13	29	17	59	4.07
6月	0	0	13	29	17	59	4.07
7月	0	0	13	29	17	59	4.07
8月	0	0	12	30	17	59	4.08
9月	0	0	12	30	18	60	4.10
10月	0	0	11	32	17	60	4.10
11月	0	0	11	32	17	60	4.10
12月	0	0	12	32	17	61	4.08
1月	0	0	12	32	15	59	4.05
2月	0	0	10	33	17	60	4.12
3月	0	0	10	30	19	59	4.15
計	0	0	143	366	205	714	4.09

R3計	0	0	151	324	228	703	4.11
R2計	0	0	107	234	264	605	4.26
R元計	0	0	107	185	320	612	4.35

(短期入所:要介護)

月	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計	平均介護度
4月	6	3	3	3	1	16	2.38
5月	9	3	4	3	1	20	2.20
6月	7	2	3	3	0	15	2.13
7月	9	6	4	2	1	22	2.09
8月	6	1	4	1	1	13	2.23
9月	10	2	5	1	1	19	2.00
10月	9	1	6	2	1	19	2.21
11月	10	1	6	2	1	20	2.15
12月	12	1	7	1	1	22	2.00
1月	14	1	6	0	1	22	1.77
2月	14	1	5	0	2	22	1.86
3月	12	2	5	0	2	21	1.95
計	118	24	58	18	13	231	2.06

R3計	59	69	63	51	5	247	2.49
R2計	83	122	89	70	9	373	2.46
R元計	74	68	112	75	34	364	2.79

(短期入所:介護予防)

月	要支援1	要支援2	合計	平均介護度
4月	0	1	1	1.00
5月	0	1	1	1.00
6月	1	2	3	1.67
7月	1	1	2	1.50
8月	1	2	3	1.67
9月	1	3	4	1.75
10月	1	2	3	1.70
11月	2	1	3	1.30
12月	1	1	2	1.50
1月	1	1	2	1.50
2月	1	1	2	1.50
3月	1	1	2	1.50
計	11	17	28	1.61

R3計	2	14	16	1.88
R2計	7	16	23	1.70
R元計	1	20	21	2.00

令和4年度 特養レクリエーション等活動状況及び地域交流状況

	園内レクリエーション等活動状況	地域交流状況	参加人員
4月	生花教室(月2回) 理美容(月1回) ラジオ体操・口腔体操・新聞たため 藤の花見会・つつじ散歩 チューリップ見学 音楽レクリエーション	感染症対策として、外部との接触を制限したため、地域交流活動は見合わせた。	
5月	生花教室(月2回) 理美容(月1回) こいのぼり裝飾 ミニ誕生会 ラジオ体操・口腔体操・新聞たため 母の日行事 園庭散歩 大相撲夏場所視聴	感染症対策として、外部との接触を制限したため、地域交流活動は見合わせた。	
6月	生花教室(月2回) 理美容(月1回) 父の日行事 ラジオ体操・口腔体操・新聞たため 七夕飾り作り 繪投げ、音楽レク	感染症対策として、外部との接触を制限したため、地域交流活動は見合わせた。	
7月	生花教室(月2回) 理美容(月1回) 口腔体操・手足・指の体操・ラジオ体操・新聞たため 七夕飾り製作、短冊作成 お誕生会 大相撲名古屋場所視聴会 鶴宮園音頭を踊ろう	夏祭り納涼祭を予定していたが、感染予防対策で中止となり、園内レクリエーションで実施される。薩摩中央高校実習生レクリエーションも、実習中止となる。	
8月	生花教室(月2回) 理美容室来園(月1回) すいか割大会 誕生会 鶴宮園音頭を踊ろう あじさい夏祭り、さくらひまわり夏祭り 新聞たため、ラジオ体操、口腔体操	感染症対策として、外部との接触を制限したため、地域交流活動は見合わせた。介護体験(1週間)を2名希望があったが感染対策で中止となる。	
9月	理美容室来園(月1回) 生花教室(月2回) 第32回さくらひまわり敬老会、あじさい敬老会 彼岸花見学(後野ヘッドライブ) ラジオ体操・口腔体操・新聞たため 十五夜 大相撲秋場所視聴 ミニ誕生会	第32回敬老会を予定していたが、感染予防対策で中止となり、園内レクリエーションで実施される。100歳祝会については、感染対策を行い園内で短時間で実施。さつま町内公民館へ敬老祝を届ける。交通安全立哨(山之ロストア近くで実施)	
10月	生花教室(月2回) 理美容室来園(月1回) 園周り彼岸花見学 ラジオ体操・口腔体操・新聞たため お誕生会 お月見行事	感染症対策として、外部との接触を制限したため、地域交流活動は見合わせた。	
11月	生花教室(月2回) 理美容室来園(月1回) 第22回あじさい運動会、さくらひまわり運動会 ラジオ体操・口腔体操・新聞たため 防災訓練(屋間地震発生から火災発生) 昔の懐かしい歌(童謡・唱歌)音楽会 大相撲九州場所視聴	第22回運動会もインフルエンザ等の感染症対策として、外部との接触を制限したため、地域交流活動は見合わせた。	
12月	理美容室来園(月1回) 生花教室(月2回) 門松を見る会 雪だるまパルーンとクリスマスツリー飾りつけ ラジオ体操・口腔体操・新聞たため じゃんけん大会 クリスマス会 お誕生会	クリスマス家族会も感染症対策として、外部との接触を制限したため、地域交流活動は見合わせた。	
1月	理美容室来園(月1回) 生花教室(月2回) 正月料理を楽しむ 紅白歌合戦(録画)鑑賞会 新年のご挨拶の会(元旦) 箱根大学駅伝応援TV鑑賞 口腔体操、ラジオ体操、新聞たため 福笑い 大相撲初場所視聴	感染症対策として、外部との接触を制限したため、地域交流活動は見合わせた。	
2月	理美容室来園(月1回) 生花教室(月2回) 豆まきの紙玉作り 口腔体操、ラジオ体操、新聞たため 豆まき ひな段飾り(飾り付けと記念撮影) ミニ誕生会	感染症対策として、外部との接触を制限したため、地域交流活動は見合わせた。	
3月	理美容室来園(月1回) 生花教室(月2回) ひなまつり 防災避難訓練(夜間想定) 大相撲春場所視聴 口腔体操、ラジオ体操、新聞たため ボウリング大会 WBC決勝(録画)鑑賞会 桜の花見(園庭、運動公園、広域公園ドライブ)	感染症対策として、外部との接触を制限したため、地域交流活動は見合わせた。	

令和4年度 ショートステイレクリエーション等活動状況及び地域交流状況

	園内レクリエーション等活動状況	地域交流状況	参加人員
4月	口腔体操、TV体操、ミニ生け花、歌、ハーモニカ、音楽鑑賞、スポーツ体操、新聞読み、つつじの花見、ストレッチ体操、お茶会、ラジオ体操、園庭散歩、生け花、オールラウンドDVD鑑賞、紙芝居、新聞折り、輪投げ、魚釣りゲーム、言葉遊び、塗り絵、ポウリング、民謡、手踊り、シャボン玉、脳トレ、指体操	感染症対策として、外部との接触を制限したため、地域交流活動は見合わせた。	
5月	口腔体操、ラジオ体操、音楽体操、脳トレ、紙芝居、オールラウンドフレイル、外で歌を歌う、TV体操、折り紙、ストレッチ、生け花教室、DVD鑑賞、日本語、指の体操、新聞読み、輪投げ、塗り絵、紙芝居、大型絵本、エプロンシアター、ハーモニカ演奏、魚釣り椅子体操、スポーツ体操、紙コップタワー、もぐらたたきゲーム、シャボン玉遊び	感染症対策として、外部との接触を制限したため、地域交流活動は見合わせた。	
6月	口腔体操、TV体操、脳トレ、計算、ハーモニカ演奏、歌、輪投げ、音楽鑑賞、生け花、大型絵本、エプロンシアター、ストレッチ体操、オールラウンドフレイル、日本語、踊り、梅酒作り、ボール投げ、紙芝居、DVD鑑賞、ミニ生け花、ラジオ体操、ボールゲーム、ゴミ箱作り、手踊り、新聞読み、脳トレ、新聞たのみ、もぐらたたきゲーム	感染症対策として、外部との接触を制限したため、地域交流活動は見合わせた。 薩摩中央高校実習生レクリエーションも、実習中止となる。	
7月	口腔体操、TV体操、玉入れ、日本語、新聞読み、ストレッチ体操、輪投げ、七夕飾り作り、七夕短冊作り、七夕飾り付け、七夕記念撮影、ハーモニカ演奏、歌、生け花教室、紙芝居、ラジオ体操、色塗り、文字盤、音楽鑑賞、大型絵本、エプロンシアター、高校野球観戦(応援)、かるた取り、DVD鑑賞、紙コップタワー、爪もみ、ボール遊び	夏祭り納涼祭が、中止となる(園内で夏祭りを実施)	
8月	口腔体操、TV体操、DVD鑑賞、数字盤、紙芝居、ハーモニカ演奏、ラジオ体操、音楽鑑賞、新聞読み、生け花教室、民謡、手踊り、ストレッチ体操、爪もみ、輪投げ、すいか割の練習、色塗り、新聞読み、まちがい探し、脳トレ、紙コップタワー、パズル、細川たかしファンショー、甲子園応援、園庭散歩、夏祭り、ボール運動	感染症対策として、外部との接触を制限したため、地域交流活動は見合わせた。	
9月	口腔体操、TV体操、絵本読み、歌、新聞読み、DVD鑑賞、ストレッチ体操、色塗り、ラジオ体操、脳トレ、風船遊び、紙芝居、生け花教室、あじさい誕生日会、音楽鑑賞、日本語、爪もみ、オールラウンドフレイル、ハーモニカ演奏、敬老会、彼岸花見学	第32回敬老会を予定していたが、感染予防対策で中止となり、園内レクリエーションで実施される。	
10月	口腔体操、音楽鑑賞、シャボン玉遊び(玄関外)、TV体操、輪投げ、新聞読み、紙芝居、ストレッチ体操、生け花教室、DVD鑑賞、脳トレ、ラジオ体操、玉入れ、魚釣り、数字盤、指の体操、紙コップタワー、色塗り、ハーモニカ演奏、リハビリ教室、ポウリング、大正琴、防災避難訓練	感染症対策として、外部との接触を制限したため、地域交流活動は見合わせた。 薩摩中央高校実習生レクリエーションも、実習中止となる。	
11月	口腔体操、ストレッチ体操、色塗り、数字盤、TV体操、歌、ハーモニカ演奏、音楽鑑賞、数字盤、玉入れ、折り紙、ラジオ体操、新聞読み、紙芝居、頭を使っての体操、エプロン読み、生け花教室、グーチョキパー体操、オールラウンドフレイル、日本語、読み聞かせ、紙コップタワー、リハビリ教室、数字盤、大型絵本、エプロンシアター、玉入れの玉作り、輪投げ、あじさい運動会、大正琴	感染症対策として、外部との接触を制限したため、地域交流活動は見合わせた。	
12月	ラジオ体操、口腔体操、TV体操、ジグソーパズル、脳トレ、新聞読み、大正琴、歌、ストレッチ体操、音楽鑑賞、大型絵本、エプロンシアター、生け花教室、輪投げ、日本語、パズル、新聞読み、塗り絵、玉入れ、ポウリング、高校駅伝応援、あじさいクリスマス会、リハビリ教室、紙芝居	感染症対策として、外部との接触を制限したため、地域交流活動は見合わせた。 クリスマス会、慰問等の受入は見合わせた。	
1月	年賀挨拶、記念撮影、口腔体操、ストレッチ、TV体操、箱根駅伝応援、紙芝居、ラジオ体操、新聞読み、紅白歌合戦(録画鑑賞)、ラグビー観戦、言葉遊び、生け花、お茶会、輪投げ、紙コップタワー、エプロンシアター、指の体操、もぐらたたきゲーム、オールラウンドフレイル、大正琴、数字盤、物当てゲーム	感染症対策として、外部との接触を制限したため、地域交流活動は見合わせた。	
2月	ラジオ体操、生け花教室、口腔体操、節分(豆まき)、新聞読み、ストレッチ体操、エプロン読み、競馬観戦、TV体操、紙芝居、音楽鑑賞、手の体操、オールラウンドフレイル、数字盤、言葉遊び、もぐらたたきゲーム、積み木、うさぎポウリング、本読み、ウサギのピン倒し、散歩、ビンゴゲーム、ひな飾りつけ、歌、パズルゲーム、大正琴	感染症対策として、外部との接触を制限したため、地域交流活動は見合わせた。	
3月	口腔体操、ストレッチ体操、TV体操、脳トレ、旅好き録画鑑賞、音楽鑑賞、新聞読み、ひな飾りと記念撮影、輪投げ、日本語、ラジオ体操、塗り絵、しりとりゲーム、パズルゲーム、数字盤、新聞読み、生け花教室、紙コップタワー、積み木上げ、言葉遊び、歌番組(録画鑑賞)、防災避難訓練、お花見茶話会、WBC日本応援、	感染症対策として、外部との接触を制限したため、地域交流活動は見合わせた。	

令和4年度 通所介護利用実績

	活動日数	定員数	要 介 護								介 護 予 防				事業対象者 合計	介護+予防+総合	
			要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計	平均介護度	要支援1	要支援2	合計	平均介護度	合計		合計	利用率
実 績	4月	26	1,040	308	105	104	32	6	555	1.78	82	123	205	1.60	36	796	76.5%
	5月	26	1,040	321	119	89	34	7	570	1.75	75	118	193	1.61	35	798	76.7%
	6月	26	1,040	325	123	85	47	2	582	1.76	85	117	202	1.58	38	822	79.0%
	7月	26	1,040	316	105	88	31	1	541	1.70	86	117	203	1.58	40	784	75.4%
	8月	27	1,080	360	94	79	23	8	564	1.63	84	103	187	1.55	35	786	72.8%
	9月	25	1,000	330	84	74	15	7	510	1.60	84	97	181	1.54	29	720	72.0%
	10月	26	1,040	364	87	77	20	2	550	1.56	88	99	187	1.53	30	767	73.8%
	11月	26	1,040	350	100	74	22	4	550	1.60	82	93	175	1.53	33	758	72.9%
	12月	24	960	301	92	58	2	4	457	1.50	68	95	163	1.58	29	649	67.6%
	1月	22	880	228	76	45	0	2	351	1.50	59	82	141	1.58	28	520	59.1%
	2月	24	960	283	97	58	0	3	441	1.51	75	88	163	1.54	34	638	66.5%
	3月	27	1,080	338	97	57	4	4	500	1.48	94	80	174	1.46	34	708	65.6%
総合計 (回数)	305	12,200	3,824	1,179	888	230	50	6,171	1.62	962	1,212	2,174	1.56	401	8,746	71.7%	

	活動日数	定員数	要 介 護								介 護 予 防				事業対象者 合計	介護+予防	
			要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計	平均介護度	要支援1	要支援2	合計	平均介護度	合計		合計	利用率
令和3年度	308	12,320	3,956	1,653	715	496	12	6,832	1.68	908	1,230	2,138	1.58	463	9,433	76.6%	
令和2年度	307	12,280	3,208	2,033	598	399	0	6,238	1.71	905	1,140	2,045	1.56	641	8,924	72.7%	
令和元年度	309	12,360	3,960	1,743	869	291	21	6,884	1.64	962	1,248	2,210	1.56	798	9,892	80.0%	

(参考資料) 令和5年3月現在

1. 年齢構成

	65～69歳	70～79歳	80～89歳	90～94歳	95歳～	計	最高	最低	平均
男性	0	2	6	6	1	15	100	72	87.4
女性	0	0	37	24	21	82	100	80	90
計	0	2	43	30	22	97			

2. 出身市町村別

	旧鶴田町	旧宮之城町	旧薩摩町	旧祁答院	旧東郷町	その他	計
男性	6	9	0	0	0	0	15
女性	42	40	0	0	0	0	82
計	48	49	0	0	0	0	97

令和4年度 通所介護レクリエーション等活動状況及び地域交流状況

	趣味・行楽的行事	リハビリ・スポーツの行事	地域交流状況
4月	連絡帳作り カッパ作り お茶を楽しむ会	リハビリ教室・脳トレ（計算問題等） 無人島ゲーム・ゴルフを目指せ 棒体操・口腔体操・いきいき体操 体重・身長測定・爪きり 色塗り 個別リハビリ	
5月	カッパ作り 食中毒について	棒体操・口腔体操・いきいき体操 個別リハビリ 輪通しゲーム・室内グランドゴルフ 体重測定・爪きり	
6月	カッパ作り 熱中症・脱水症について	色塗り・脳トレ（計算問題等） 個別リハビリ 室内グランドゴルフ・魚つりゲーム 棒体操・口腔体操・いきいき体操 爆弾ゲーム・風船リレー 体重測定・爪きり	
7月	カッパ作り 短冊作り・カラオケ	色塗り・脳トレ（計算問題等） 個別リハビリ 室内グランドゴルフ ボウリング・ジエスターゲーム 棒体操・口腔体操・いきいき体操 体重測定・爪きり	介護相談員
8月	カッパ作り 夏祭り（うまい棒・金魚釣り） 夏祭りの手踊り披露 カラオケ 高校野球観戦（鹿児島代表戦）	色塗り・脳トレ（計算問題等） 個別リハビリ・歌体操 室内グランドゴルフ 棒体操・口腔体操・いきいき体操 体重測定・爪きり	
9月	カッパ作り 防災訓練（DVD鑑賞・避難練習等） 敬老会 （ドンパチ節、手踊り、お太鼓、太鼓等） 終野彼岸花（DVD鑑賞）	リハビリ教室・脳トレ（計算問題等） 個別リハビリ 室内グランドゴルフ・ボールコロゲーム 棒体操・口腔体操・いきいき体操 体重測定・爪きり・色塗り	
10月	カッパ作り 防災予行訓練（地震想定）	リハビリ教室・脳トレ（計算問題等） 個別リハビリ ベトナム紙飛行機・果物の貼り絵 室内グランドゴルフ 棒体操・口腔体操・いきいき体操 色塗り 身長・体重測定・爪きり	介護相談員
11月	カッパ作り 避難訓練	リハビリ教室・脳トレ（計算問題等） 個別リハビリ 運動会（輪投げ・じゃんけん遊び・ひしゃくでキャッチ・ちりとりゴルフ） 棒体操・口腔体操・いきいき体操 体重測定・爪きり・色塗り	
12月	カッパ作り 忘年会（カラオケ・やすき節等の手踊り）	リハビリ教室・脳トレ（計算問題等） 個別リハビリ クリスマスカード作成・室内グランドゴルフ 魚釣りゲーム・うた体操 棒体操・口腔体操・いきいき体操 体重測定・爪きり・色塗り	
1月	カッパ作り 初詣（紫尾神社）・写真撮影 正月遊び（鯛釣り）	リハビリ教室・脳トレ（計算問題等） 個別リハビリ 室内グランドゴルフ・ボウリング 棒体操・口腔体操・いきいき体操 体重測定・爪きり・色塗り	
2月	カッパ作り	リハビリ教室・脳トレ（計算問題等） 個別リハビリ・節分（鬼退治）ゲーム 室内グランドゴルフ 棒体操・口腔体操・いきいき体操 体重測定・爪きり・色塗り	
3月	カッパ作り・雛飾り作り 防災訓練 花見（鶴田ダム・宗功寺公園等）	リハビリ教室・脳トレ（計算問題等） 個別リハビリ 室内グランドゴルフ・色塗り 輪投げ・シュートゲーム 棒体操・口腔体操・いきいき体操 体重測定・爪きり・色塗り	

令和4年度 訪問介護利用実績

要介護度	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月		【合計】	
	人数	回数																								
要介護1	12	127	14	138	15	125	14	148	15	106	13	109	15	118	15	116	15	123	14	102	16	134	18	174	176	1,520
要介護2	6	28	6	29	6	26	6	30	6	36	4	22	4	21	3	16	1	9	1	8	1	8	2	12	46	245
要介護3	6	60	4	62	3	60	3	90	3	102	4	88	3	70	3	68	2	59	2	13	0	0	0	0	33	672
要介護4	4	108	4	87	6	133	6	109	5	66	3	55	3	55	3	57	2	52	2	44	3	68	4	78	45	912
要介護5	2	43	2	43	2	44	2	44	2	2	2	2	2	2	2	46	2	43	2	45	2	40	2	44	24	436
合計	30	366	30	359	32	388	31	421	31	312	26	276	27	310	26	300	22	288	21	207	22	250	26	308	324	3,785
平均介護度	2.30		2.30		2.40		2.50		2.40		2.30		2.30		2.30		2.20		2.30		2.20		2.20			

要支援1	6	26	5	22	6	28	7	29	7	23	6	23	5	22	5	23	5	20	4	12	4	13	4	13	64	254
要支援2	8	50	9	54	8	51	8	47	6	31	7	39	7	42	7	38	6	35	6	31	5	29	4	21	81	469
事業対象者																										0
合計	14	76	14	76	14	79	15	76	13	54	13	62	12	64	12	62	11	55	10	43	9	42	8	34	145	723
平均介護度 (要支援)	1.57		1.50		1.57		1.53		1.46		1.53		1.58		1.58		1.72		1.60		1.50		1.50			
総合計 (回数)	449		462		467		451		425		375		378		362		343		270		291		342		4,615	

令和4年度	449	462	467	451	425	375	378	362	343	270	291	342	4,615
令和3年度	486	484	474	499	483	463	470	456	454	410	432	475	5,596
令和2年度	453	476	433	464	478	464	499	457	462	437	423	501	5,547

(参考資料) 令和5年3月現在

1. 年齢構成

	64~69歳	70~79歳	80~89歳	90~95歳	96歳~	計	最高	最低	平均
男性	0	1	3	3	0	7	94	89	
女性	1	3	15	9	3	31	104	68	
計	1	4	18	12	3	38			

2. 出身市町村別

	旧鶴田町	旧宮之城町	旧薩摩町	旧那答院町	旧東郷町	その他	計
男性			0	0	0		0
女性			0	0	0		0
計	0	0	0	0	0	0	0

令和4年度 グループホーム利用実績

月	日数	定員	日数×定員	実質入居数	居室利用率		要支援2	要1	要2	要3	要4	要5
			a	b	b÷a							
4月	30	18	540	540	100.00%		30	150	150	150	60	0
5月	31	18	558	558	100.00%		31	155	155	155	62	0
6月	30	18	540	522	96.67%		30	150	132	150	60	0
7月	31	18	558	558	100.00%		31	155	155	155	62	0
8月	31	18	558	545	97.67%		18	124	155	155	93	0
9月	30	18	540	538	99.63%		1	120	179	178	60	0
10月	31	18	558	558	100.00%		31	124	186	155	62	0
11月	30	18	540	540	100.00%		30	90	210	150	60	0
12月	31	18	558	549	98.39%		31	93	220	155	50	0
1月	31	18	558	554	99.28%		31	93	244	155	31	0
2月	28	18	504	476	94.44%		28	84	196	140	28	0
3月	31	18	558	552	98.92%		31	93	242	155	31	0
計	365	216	6,570	6,490	98.78%		323	1,431	2,224	1,853	659	0

令和3年度

計	365	216	6,570	6,442	98.05%
---	-----	-----	-------	-------	--------

令和2年度

計	365	216	6,570	6,502	98.96%
---	-----	-----	-------	-------	--------

令和元年度

計	366	216	6,588	6,482	98.39%
---	-----	-----	-------	-------	--------

(参考資料) 令和5年3月31日現在

1. 介護度

	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計	平均
男性	0	1	0	0	0	0	1	1.0
女性	1	2	8	5	1	0	17	2.20
計	1	3	8	5	1	0	18	2.14

令和3年度

計	1	5	5	5	2	0	18	2.13
---	---	---	---	---	---	---	----	------

令和2年度

計	6	4	7	1	0	0	18	2.16
---	---	---	---	---	---	---	----	------

令和元年度

計	5	5	7	1	0	0	18	2.22
---	---	---	---	---	---	---	----	------

2. 年齢構成

	65～69歳	70～79歳	80～89歳	90～99歳	100歳～	計	最高	最低	平均
男性	0	0	0	1	0	1	93	93	93
女性	0	0	8	9	0	17	98	83	90.5
計	0	0	8	10	0	18			90.7

3. 出身市町村別

	旧穂田町	旧富之郷町	旧柳家浜町	旧福原町	計
男性	1	0	0	0	1
女性	3	13	0	1	17
計	4	13	0	1	18

令和4年度 グループホームレクリエーション等活動状況及び地域交流状況

月	日	ホーム内レクリエーション等活動状況	参加人員	地域交流状況	参加人員
4月	10日 14日	生花教室	9名	桜花見(ドライブ)	
5月	1日 8日 8日 12日 14日	福山千枝子様誕生日会 母の日 大野様誕生日会 生花教室 ビューティーヘルパー	9名 18名 9名 9名 18名		
6月	12日 19日 19日	生花教室 田中様誕生日会 父の日	9名 9名 9名		
7月	1日 7日 11日 14日 20日 22日 23日	牧野様誕生日会 七夕 本田様誕生日会 生花教室 新型コロナウイルスワクチン接種(2回目・4回目) ひわまり畑・蓮の花畑見学(ドライブ) ひわまり畑・蓮の花畑見学(ドライブ)	9名 18名 9名 9名 17名		9名 6名
8月	11日 11日 12日 20日 22日 30日	生花教室 ビューティーヘルパー 新型コロナウイルスワクチン接種(2回目・4回目) 山下様誕生日会 鶴宮園夏祭り 市成様誕生日会	9名 18名 3名 9名 17名 8名		
9月	15日 21日 30日	生花教室 鶴宮園敬老会 介護相談員来訪(2名)	9名 18名		
10月	13日 22日 24日	生花教室 ビューティーヘルパー うらら運動会	9名 18名 18名		
11月	9日 14日 16日 17日 18日 25日 28日	肺炎球菌ワクチン接種 防災避難訓練兼運営推進委員会 インフルエンザ予防接種 生花教室 大野様誕生日会 深水様誕生日会 肺炎球菌ワクチン接種	5名 18名 18名 9名 9名 9名 1名		
12月	10日 14日 15日 17日 20日 24日	福山美代子様誕生日会 新型コロナウイルスワクチン接種(3回目・5回目) 生花教室 ビューティーヘルパー 新型コロナウイルスワクチン接種(5回目) クリスマス会	9名 17名 9名 18名 1名 17名		
1月	19日	生花教室	9名		
2月	3日 5日 6日 18日	節分 久木様誕生日会 インターンシップ(職場体験実習)10日迄 ビューティーヘルパー	17名 8名 17名		
3月	3日 9日 19日 27日 30日	ひな祭り 生花教室 福団厚子様・市野様・横西様誕生日会 防災避難訓練兼運営推進委員会	17名 9名 9名 18名	桜花見(ドライブ)	6名

(注) 上記の他、小グループ活動・余暇活動【カラオケ・ラジオ体操・盤絵づくり・新聞読み・外気浴等】を実施した。

令和4年度 居宅介護支援センター利用実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要介護1	45	48	48	47	52	50	47	47	49	46	50	54	583
要介護2	21	21	22	21	21	20	21	23	21	20	20	22	253
要介護3	17	18	17	20	20	21	21	18	18	20	20	16	226
要介護4	13	14	14	14	13	12	11	9	8	7	5	8	128
要介護5	1	2	2	2	2	1	1	1	3	3	3	4	25
計	97	103	103	104	108	104	101	98	99	96	98	104	1215
平均介護度	2.01	2.04	2.03	2.07	2.00	1.98	1.99	1.92	1.94	1.97	1.89	1.90	1.98
要支援1	1	1	1	1	1	1	3	3	1	1	2	2	18
要支援2	1	2	1	1	1	1	1	1	2	1	2	2	16
計	2	3	2	2	2	2	4	4	3	2	4	4	34
平均介護度	1.50	1.67	1.50	1.50	1.50	1.50	1.25	1.25	1.67	1.50	1.50	1.50	1.47
合計 (件数)	100	107	106	107	111	106	105	102	102	98	102	108	1,254
事業対象者	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	5
令和3年度	115	117	114	111	110	107	111	112	107	100	104	102	1,310
令和2年度	102	103	103	102	101	108	109	111	106	100	99	99	1,243
令和元年度	102	100	99	107	108	110	102	99	98	91	92	102	1,210

(参考資料) 令和5年3月現在

1. 年齢構成

	65～69歳	70～79歳	80～89歳	90～95歳	96歳～	計	最高	最低	平均
男性	1	6	15	6	3	31	101	66	85.0
女性	1	10	33	25	8	77	105	68	86.9
計	2	16	48	31	11	108			86.4

2. 出身市町村別

	旧鶴田町	旧宮之城町	旧藤原町	旧祁答院町	旧東郷町	その他	計
男性	6	24	1	0	0	0	31
女性	28	49	0	0	0	0	77
計	34	73	1	0	0	0	108



別紙 4

財 産 目 録

令和 5年 3月31日 現在

(単位:円)

貸借対照表科目	場所・物量等	取得年度	使用目的等	取得価額	減価償却累計額	貸借対照表価額
I 資産の部						
1 流動資産						
現金						40,761
預金						
小口現金						
鹿児島銀行普通預金No.742056	宮之城支店		運転資金			81,847,019
鹿児島銀行普通預金No.742045	宮之城支店		運転資金			1,427,557
北さつま農業協同組合No.3793166	平川支所		運転資金			11,547,611
ゆうちょ銀行通常預金No.30323521	紫尾郵便局		運転資金			77,224,668
南日本銀行普通預金No.840569	宮之城支店		運転資金			61,536
南日本銀行普通預金No.0332685	宮之城支店		運転資金			45,235
ゆうちょ銀行定期貯金No.576632168	紫尾郵便局		運転資金			5,000,000
鹿児島銀行定期預金No.8075062	宮之城支店		運転資金			100,000,000
			小計			277,153,626
事業未収金						
鹿児島県国保団体連合会	2・3月分介護報酬		運転資金			58,624,330
さつま町	2・3月分介護予防支援業務委託料		運転資金			190,800
施設利用者	施設等利用者負担金		運転資金			7,710,782
			小計			66,525,912
未収金						
鹿児島県社会福祉協議会	アルテンハイム鶴宮園職員		職員退職金支払			6,609,265
コカ・コーラウエスト株式会社	アルテンハイム鶴宮園		自販機手数料			2,847
			小計			6,612,112
貯蔵品						
災害用食品・消耗品	アルテンハイム鶴宮園		災害時施設利用者及び職員用			2,050,957
立替金						
(卸)平成ステイカル他	アルテンハイム鶴宮園		施設利用者分立替			12,285
1年以内長期前払費用						
東京海上日動火災保険	アルテンハイム鶴宮園		施設火災・賠償保険料			1,006,918
	アルテンハイム鶴宮園		自動車自賠責保険			103,931
			小計			1,110,849
			流動資産合計			353,506,502
2 固定資産						
(1) 基本財産						
土地						
	さつま町紫尾字下ノ原4077-1、4077-3、4166-1	1991	第1種社会福祉事業である特別養護老人ホーム使用	38,533,653		38,533,653
	さつま町紫尾字下ノ原4071-2、4072-6、4072-7	2002	第1種社会福祉事業である特別養護老人ホーム使用	651,368		651,368
	さつま町紫尾字下ノ原4088-1 4088-2 4088-3	2002	第2種社会福祉事業であるグループホーム使用	11,860,800		11,860,800
	さつま町紫尾字下ノ原4090-2	2004	第2種社会福祉事業であるグループホーム使用	5,130,400		5,130,400
	さつま町紫尾字下ノ原4090-2	2005	第2種社会福祉事業であるグループホーム使用	2,692,250		2,692,250
	さつま町紫尾字下ノ原4144-1	2011	第1種社会福祉事業である簡寿会職員駐車場使用	5,765,800		5,765,800
			小計			64,634,271
建物						
本体	さつま町紫尾4077-1	1991	アルテンハイム鶴宮園使用	697,927,437	488,948,914	208,978,523
本体増築	さつま町紫尾4077-1	2012	アルテンハイム鶴宮園使用	124,626,630	69,334,646	55,291,984
G11号館	さつま町紫尾4077-1	2003	アルテンハイム鶴宮園使用	101,653,014	63,039,665	38,613,349
G12号館	さつま町紫尾4077-1	2004	アルテンハイム鶴宮園使用	62,117,188	50,673,419	11,443,769
			小計			314,327,625
			基本財産合計			378,961,896
(2) その他の固定資産						
建物						
備蓄品倉庫	さつま町紫尾字下ノ原4077-1		備蓄品用	1,375,000	192,981	1,182,019
構築物						
外構フェンス避難口設置他	さつま町紫尾字下ノ原4077-1		施設利用者避難用他	17,318,774	14,304,522	3,014,252
車輛運搬器具						
トヨタハイエース他10台			施設利用者送迎用	15,851,949	15,851,938	11
器具及び備品						
温冷配膳車他			福) 簡寿会施設利用者のため	59,487,679	78,672,897	10,814,782
ソフトウェア						
ほのぼのNEXTソフト			介護記録・請求業務等に使用	12,705,000	5,235,082	7,469,918
退職給付引当資産						
鹿児島県社会福祉協議会			職員退職金積立	27,647,950		27,647,950
施設設備等積立資産						
定期預金	鹿児島銀行/宮之城支店		施設整備等に使用	255,000,000		255,000,000
定期預金	北さつま農業協同組合/本所		施設設備等に使用	102,000,000		102,000,000
			小計			357,000,000
長期前払費用						
建物火災・賠償保険他			福) 簡寿会使用	563,275		563,275
その他の固定資産						
自動車リサイクル預託金			福) 簡寿会	29,750		29,750
			その他の固定資産合計			407,721,957
			固定資産合計			786,683,853
			資産合計			1,140,190,355
II 負債の部						
1 流動負債						
事業未払金						
九州電力他						20,910,344
預り金						
公認会計士預り源泉税						5,105
職員預り金						
3月分社会保険他						3,931,113
賞与引当金						
令和5年度夏季賞与 令和4年度経費						13,440,766
			流動負債合計			38,287,328
2 固定負債						
退職給付引当金						
職員退職金引当						34,139,386
			固定負債合計			34,139,386
			負債合計			72,426,714
			差引純資産			1,067,763,621



第三号第四様式（第二十七条第四項関係）

拠点区分貸借対照表

令和 5年 3月31日現在

(単位:円)

資 産 の 部				負 債 の 部			
	当年度末	前年度末	増 減		当年度末	前年度末	増 減
0001 流動資産	353,506,502	357,495,032	-3,988,530	0006 流動負債	38,287,348	40,707,450	-2,420,102
1111 現金	40,761	41,498	-737	2112 事業未払金	20,910,344	22,836,710	-1,926,366
1112 預金	277,153,626	277,330,556	-176,930	2113 その他の未払金	0	42,000	-42,000
1121 有価証券	0	0	0	2129 1年以内支払予定長期未払金	0	0	0
1131 事業未収金	66,525,912	67,899,593	-873,681	2131 未払費用	0	0	0
1132 未収金	6,612,112	9,189,862	-2,577,750	2132 預り金	5,105	5,105	0
1133 未収補助金	0	60,000	-60,000	2133 職員預り金	3,931,113	4,051,241	-120,128
1134 未収収益	0	0	0	2141 前受金	0	12,000	-12,000
1141 貯蔵品	2,050,957	2,376,824	-325,867	2142 前受収益	0	0	0
1161 立替金	12,285	7,973	4,312	2151 仮受金	0	0	0
1162 前払金	0	0	0	2152 賞与引当金	13,440,786	13,760,394	-319,608
1163 前払費用	0	0	0	2211 その他の流動負債	0	0	0
1171 1年以内長期前払費用	1,110,849	1,088,726	22,123	0007 固定負債	34,139,386	33,815,661	323,725
1175 短期貸付金	0	0	0	2311 設備資金借入金	0	0	0
1181 仮払金	0	0	0	2312 長期運営資金借入金	0	0	0
1191 その他の流動資産	0	0	0	2313 リース債務	0	0	0
1192 徴収不能引当金	0	0	0	2321 退職給付引当金	34,139,386	33,815,661	323,725
0002 固定資産	786,683,853	793,387,350	-6,703,497	2322 長期未払金	0	0	0
0003 基本財産	378,961,896	402,973,447	-24,011,551	2411 その他の固定負債	0	0	0
111 土地	64,634,271	64,634,271	0	負債の部合計	72,426,734	74,523,111	-2,096,377
112 建物	314,327,625	338,339,176	-24,011,551	純 資 産 の 部			
113 構築物	0	0	0	0009 基本金	331,109,471	331,109,471	0
1215 その他の基本財産	0	0	0	3111 基本金	331,109,471	331,109,471	0
0004 その他の固定資産	407,721,957	390,413,903	17,308,054	0010 国庫補助金等特別積立金	56,416,196	62,214,812	-5,798,616
1311 土地	0	0	0	3211 国庫補助金等特別積立金	56,416,196	62,214,812	-5,798,616
1312 建物	1,182,019	1,254,387	-72,368	0011 その他の積立金	357,000,000	335,000,000	22,000,000
1313 構築物	3,014,252	3,543,067	-528,815	3221 施設整備等積立金	357,000,000	335,000,000	22,000,000
1314 機械及び装置	0	0	0	0012 次期繰越活動増減差額	323,237,954	348,034,988	-24,797,034
1315 車輜運搬具	11	12	-1	3311 次期繰越活動増減差額	323,237,954	348,034,988	-24,797,034
1316 器具及び備品	10,814,782	11,302,820	-488,038	3312 (うち当期活動増減差額)	-2,797,034	216,260	-3,013,294
1317 建設仮勘定	0	0	0				
1318 減価償却累計額 △	0	0	0				
1319 有形リース資産	0	0	0				
1322 ソフトウェア	7,469,918	9,779,917	-2,309,999				
1323 無形リース資産	0	0	0				
1324 投資有価証券	0	0	0				
1329 退職給付引当資産	27,647,950	27,964,075	-336,125				
1332 施設設備等積立資産	357,000,000	335,000,000	22,000,000				
1334 長期前払費用	563,275	1,519,875	-956,600				
1341 その他の固定資産	29,750	29,750	0				
資産の部合計	1,140,190,355	1,150,882,382	-10,692,027	純資産の部合計	1,067,763,621	1,076,359,271	-8,595,650
				負債及び純資産の部合計	1,140,190,355	1,150,882,382	-10,692,027

脚注
1. 減価償却費の累計額 786,254,064
2. 徴収不能引当金の額 0



第一号第四様式 (第十七条第四項関係)

拠点区分資金収支計算書

(自) 令和 4年 4月 1日 (至) 令和 5年 3月31日

(単位: 円)

勘定科目		予算(A)	決算(B)	差異(A)-(B)	
事業収入	0165 介護保険事業収入	478,413,000	467,264,913	11,148,087	
	0166 施設介護料収入	200,915,000	200,617,470	297,530	
	8111 介護報酬収入	181,185,000	180,239,749	945,251	
	8113 利用者負担金収入(一般)	19,730,000	20,377,721	-647,721	
	0167 居宅介護料収入(介護報酬収入)	154,830,000	145,227,611	9,602,389	
	8121 介護報酬収入	138,736,000	126,811,505	11,924,495	
	8122 介護予防報酬収入	16,094,000	18,416,106	-2,322,106	
	0168 居宅介護料収入(利用者負担金収入)	16,691,000	16,334,799	356,201	
	8131 介護負担金収入(公費)	310,000	259,399	50,601	
	8132 介護負担金収入(一般)	14,263,000	13,997,706	265,294	
	8133 介護予防負担金収入(公費)	363,000	360,639	2,361	
	8134 介護予防負担金収入(一般)	1,755,000	1,717,055	37,945	
	0171 居宅介護支援介護料収入	19,116,000	19,218,470	-102,470	
	8161 居宅介護支援介護料収入	19,116,000	19,218,470	-102,470	
	0172 利用者等利用料収入	76,408,000	75,536,762	871,238	
	8174 食費収入(公費)	13,530,000	13,232,390	297,610	
	8175 食費収入(一般)	30,070,000	29,858,390	211,610	
	8176 居住費収入(公費)	9,790,000	9,637,671	152,329	
	8177 居住費収入(一般)	22,638,000	22,431,311	206,689	
	8178 その他の利用料収入	380,000	377,000	3,000	
	0173 その他の事業収入	10,453,000	10,329,801	123,199	
	8181 補助金事業収入	7,453,000	7,535,701	-82,701	
	8183 受託事業収入	3,000,000	2,794,100	205,900	
	0199 経常経費寄附金収入	1,000		1,000	
	8531 経常経費寄附金収入	1,000		1,000	
	0200 受取利息配当金収入	56,000	37,832	18,168	
	8541 受取利息配当金収入	56,000	37,832	18,168	
0201 その他の収入	231,000	234,392	-3,392		
8611 受入研修費収入	30,000	10,000	20,000		
8612 利用者等外給食費収入	1,000		1,000		
8613 雑収入	200,000	224,392	-24,392		
事業活動収入計(1)		478,701,000	467,537,137	11,163,863	
事業活動に要する支出	0129 人件費支出	340,700,000	340,605,553	94,447	
	7111 役員報酬支出	1,200,000	1,200,000		
	7112 職員給料支出	176,300,000	176,337,645	-37,645	
	7113 職員賞与支出	39,300,000	39,285,616	14,384	
	7114 非常勤職員給与支出	70,100,000	69,960,546	139,454	
	7116 退職給付支出	11,700,000	11,725,623	-25,623	
	7117 法定福利費支出	42,100,000	42,096,123	3,877	
	0130 事業費支出	72,685,000	71,317,014	1,367,986	
	7211 給食費支出	23,800,000	23,547,701	252,299	
	7212 介護用品費支出	5,300,000	5,202,657	97,343	
	7213 医薬品費支出	150,000	130,103	19,897	
	7215 保健衛生費支出	1,270,000	1,364,525	-94,525	
	7218 教養娯楽費支出	700,000	730,681	-30,681	
	7223 水道光熱費支出	18,700,000	18,537,235	162,765	
	7224 燃料費支出	3,000,000	3,181,714	-181,714	
	7225 消耗器具備品費支出	8,865,000	8,078,272	786,728	
	7226 保険料支出	2,000,000	1,953,420	46,580	
	7227 賃借料支出	4,700,000	4,698,332	1,668	
	7231 葬祭費支出	200,000	196,552	3,448	
	7232 車輦費支出	4,000,000	3,695,822	304,178	
	0131 事務費支出	36,300,000	35,451,202	848,798	
	7311 福利厚生費支出	3,350,000	3,358,280	-8,280	
	7312 職員被服費支出	150,000	109,922	40,078	
	7313 旅費交通費支出	400,000	472,793	-72,793	
	7314 研修研究費支出	400,000	409,056	-9,056	
	7315 事務消耗品費支出	700,000	622,445	77,555	
	7316 印刷製本費支出	700,000	695,631	4,369	
	7319 修繕費支出	12,600,000	11,831,433	768,567	
	7321 通信運搬費支出	1,500,000	1,451,863	48,137	
	7322 会議費支出	110,000	98,046	11,954	
	7323 広報費支出	90,000	107,558	-17,558	
	7324 業務委託費支出	10,500,000	10,511,915	-11,915	
	7327 賃借料支出	3,100,000	3,048,862	51,138	
	7329 租税公課支出	50,000	47,000	3,000	
	7331 保守料支出	1,650,000	1,707,293	-57,293	
	7332 渉外費支出	160,000	150,076	9,924	
	7333 諸会費支出	470,000	466,792	3,208	
	7335 雑支出	370,000	362,237	7,763	
	0138 その他の支出	100,000	137,000	-37,000	
	7452 雑支出	100,000	137,000	-37,000	
	事業活動支出計(2)		449,785,000	447,510,769	2,274,231
	事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)		28,916,000	20,026,368	8,889,632
	施収				

第一号第四様式（第十七条第四項関係）

拠点区分資金収支計算書
 (自) 令和 4年 4月 1日 (至) 令和 5年 3月31日

(単位:円)

勘定科目		予算(A)	決算(B)	差異(A)-(B)	
設 備 等 に よ る 収 支	入				
	施設整備等収入計(4)				
	0144	固定資産取得支出	450,000	1,252,650	-802,650
	7524	器具及び備品取得支出	230,000	1,032,650	-802,650
	7526	ソフトウェア取得支出	220,000	220,000	
	施設整備等支出計(5)	450,000	1,252,650	-802,650	
	施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	-450,000	-1,252,650	802,650	
そ の 他 の 活 動 に よ る 収 入	0214	積立資産取崩収入	12,430,000	12,427,623	2,377
	8851	退職給付引当資産取崩収入	4,430,000	4,427,623	2,377
	8852	施設整備等積立資産取崩収入	8,000,000	8,000,000	
		その他の活動収入計(7)	12,430,000	12,427,623	2,377
そ の 他 の 活 動 に よ る 支 出	0152	積立資産支出	3,180,000	3,111,500	68,500
	7641	退職給付引当資産支出	3,180,000	3,111,500	68,500
	0162	その他の活動による支出	30,000,000	30,000,000	
	7681	施設整備等積立金積立支出	30,000,000	30,000,000	
	その他の活動支出計(8)	33,180,000	33,111,500	68,500	
	その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	-20,750,000	-20,683,877	-66,123	
	予備費支出(10)	12,000,000	—	10,180,000	
		-1,820,000			
	当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)	-2,464,000	-1,910,159	-553,841	
	前期末支払資金残高(12)	329,459,000	329,459,250	-250	
	当期末支払資金残高(11)+(12)	326,995,000	327,549,091	-554,091	



第二号第四様式 (第二十三条第四項関係)

拠点区分事業活動計算書
(自) 令和 4年 4月 1日 (至) 令和 5年 3月31日

(単位:円)

勘定科目		当年度決算(A)	前年度決算(B)	増減(A)-(B)
収	0057 施設介護料収益	200,617,470	196,971,710	3,645,760
	5111 介護報酬収益	180,239,749	177,075,297	3,164,452
	5113 利用者負担金収益(一般)	20,377,721	19,896,413	481,308
	0058 居宅介護料収益(介護報酬収益)	145,227,611	162,368,728	-17,141,117
	5121 介護報酬収益	126,811,505	144,835,054	-18,023,549
	5122 介護予防報酬収益	18,416,106	17,533,674	882,432
	0059 居宅介護料収益(利用者負担金収益)	16,334,799	18,723,032	-2,388,233
	5131 介護負担金収益(公費)	259,399	620,140	-360,741
	5132 介護負担金収益(一般)	13,997,706	16,154,706	-2,157,000
	5133 介護予防負担金収益(公費)	360,639	120,642	239,997
	5134 介護予防負担金収益(一般)	1,717,055	1,827,544	-110,489
	0062 居宅介護支援介護料収益	19,218,470	16,620,980	2,597,490
	5161 居宅介護支援介護料収益	19,218,470	16,620,980	2,597,490
	サ	0063 利用者等利用料収益	75,536,762	76,285,431
5174 食費収益(公費)		13,232,390	15,678,350	-2,445,960
5175 食費収益(一般)		29,858,390	27,913,032	1,945,358
5176 居住費収益(公費)		9,637,671	10,054,489	-416,818
5177 居住費収益(一般)		22,431,311	22,341,560	89,751
5178 その他の利用料収益		377,000	298,000	79,000
0064 その他の事業収益		10,329,801	3,096,173	7,233,628
5181 補助金事業収益		7,535,701	233,573	7,302,128
5183 受託事業収益		2,794,100	2,862,600	-68,500
0089 経常経費寄附金収益			50,000	-50,000
5541 経常経費寄附金収益		50,000	-50,000	
サービス活動収益計(1)		467,264,913	474,116,054	-6,851,141
ス	0015 人件費	340,609,670	340,907,695	-298,025
	4111 役員報酬	1,200,000	1,200,000	
	4112 職員給料	176,337,645	180,157,927	-3,820,282
	4113 職員賞与	27,320,056	28,941,774	-1,621,718
	4114 賞与引当金繰入	13,440,786	13,760,394	-319,608
	4115 非常勤職員給与	69,960,546	63,850,598	6,109,948
	4117 退職給付費用	12,049,348	12,542,681	-493,333
	4118 法定福利費	40,301,289	40,454,321	-153,032
	0016 事業費	72,251,491	67,134,793	5,116,698
	4211 給食費	23,547,701	23,877,986	-330,285
	4212 介護用品費	5,202,657	5,045,999	156,658
	4213 医薬品費	130,103	168,614	-38,511
	4215 保健衛生費	1,364,525	991,831	372,694
	4218 教養娯楽費	730,681	862,934	-132,253
	4223 水道光熱費	18,537,235	16,107,795	2,429,440
	4224 燃料費	3,181,714	2,931,911	249,803
	4225 消耗器具備品費	8,078,272	7,397,687	680,585
	4226 保険料	2,887,897	2,910,843	-22,946
	4227 賃借料	4,698,332	3,713,104	985,228
4231 葬祭費	196,552	230,698	-34,146	
4232 車輛費	3,695,822	2,895,391	800,431	
0017 事務費	35,451,202	43,038,952	-7,587,750	
4311 福利厚生費	3,358,280	4,672,391	-1,314,111	
4312 職員被服費	109,922	275,035	-165,113	
4313 旅費交通費	472,793	479,055	-6,262	
4314 研修研究費	409,056	330,651	78,405	
4315 事務消耗品費	622,445	832,465	-210,020	
4316 印刷製本費	695,631	673,260	22,371	
4319 修繕費	11,831,433	15,224,883	-3,393,450	
4321 通信運搬費	1,451,863	1,499,115	-47,252	
4322 会議費	98,046	141,590	-43,544	
4323 広報費	107,558	962,271	-854,713	
4324 業務委託費	10,511,915	11,148,917	-637,002	
4327 賃借料	3,048,862	2,855,747	193,115	
4329 租税公課	47,000	43,000	4,000	
4331 保守料	1,707,293	2,035,650	-328,357	
4332 渉外費	150,076	988,404	-838,328	
4333 諸会費	466,792	486,430	-19,638	
4335 雑費	362,237	390,088	-27,851	
0026 利用者負担軽減額		138,112	-138,112	
4441 利用者負担軽減額		138,112	-138,112	
0027 減価償却費	29,653,410	31,386,451	-1,733,041	
4451 減価償却費	29,653,410	31,386,451	-1,733,041	
0028 国庫補助金等特別積立金取崩額	-5,798,616	-5,711,664	-86,952	
4461 国庫補助金等特別積立金取崩額	-5,798,616	-5,711,664	-86,952	
サービス活動費用計(2)		472,167,157	476,894,339	-4,727,182
サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)		-4,902,244	-2,778,285	-2,123,959
サ	0093 受取利息配当金収益	37,832	9,243	28,589
	5821 受取利息配当金収益	37,832	9,243	28,589
	0098 その他のサービス活動外収益	1,350,581	4,027,256	-2,676,675

第二号第四様式（第二十三条第四項関係）

拠点区分事業活動計算書
 (自) 令和4年4月1日 (至) 令和5年3月31日

(単位:円)

勘定科目		当年度決算(A)	前年度決算(B)	増減(A)-(B)
ピ ス 活 動 外 増 減 の 部	益			
	5871 受入研修費収益	10,000	20,800	-10,800
	5872 利用者等外給食収益		593,250	-593,250
	5873 退職給付引当預差益	1,116,189	2,254,769	-1,138,580
	5874 雑収益	224,392	1,158,437	-934,045
	サービス活動外収益計(4)	1,388,413	4,036,499	-2,648,086
	費用			
	0038 その他のサービス活動外費用	273,191	1,041,953	-768,762
	4841 利用者等外給食費		711,900	-711,900
	4842 退職給付引当預差損	136,191	197,053	-60,862
4843 雑損失	137,000	133,000	4,000	
サービス活動外費用計(5)	273,191	1,041,953	-768,762	
サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)	1,115,222	2,994,546	-1,879,324	
経常増減差額(7)=(3)+(6)	-3,787,022	216,261	-4,003,283	
特 別 増 減 の 部	取			
	0100 施設整備等補助金収益		913,000	-913,000
	5911 施設整備等補助金収益		913,000	-913,000
	0103 固定資産受贈額	990,000		990,000
	5941 器具及び備品受贈額	990,000		990,000
	特別収益計(8)	990,000	913,000	77,000
	費			
	0042 固定資産売却損・処分損	12	2	10
	4932 車輛運搬具売却損・処分損	1	1	
	4933 器具及び備品売却損・処分損	11	1	10
0043 国庫補助金等特別積立金取崩額(除)		-1	1	
4941 国庫補助金等特別積立金取崩額(除)		-1	1	
0044 国庫補助金等特別積立金積立額		913,000	-913,000	
4951 国庫補助金等特別積立金積立額		913,000	-913,000	
特別費用計(9)	12	913,001	-912,989	
特別増減差額(10)=(8)-(9)	989,988	-1	989,989	
当期活動増減差額(11)=(7)+(10)	-2,797,034	216,260	-3,013,294	
繰 越 活 動 増 減 差 額 の 部	前期繰越活動増減差額(12)	348,034,988	367,818,728	-19,783,740
	当期末繰越活動増減差額(13)=(11)+(12)	345,237,954	368,034,988	-22,797,034
	基本金取崩額(14)			
	基金取崩額(15)			
	その他の積立金取崩額(16)	8,000,000	10,000,000	-2,000,000
	6311 施設整備等積立金取崩額	8,000,000	10,000,000	-2,000,000
	その他の積立金積立額(17)	30,000,000	30,000,000	
	6321 施設整備等積立資産積立額	30,000,000	30,000,000	
	次期繰越活動増減差額(18)=(13)+(14)+(15)+(16)-(17)	323,237,954	348,034,988	-24,797,034

計算書類に対する注記

1. 継続事業の前提に関する注記

該当なし

2. 重要な会計方針

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

該当なし

(2) 固定資産の減価償却の方法

定額法

(3) 引当金の計上基準

①退職給付引当金の計上基準

職員の退職金支給に備える為、期末に在職する職員の自己都合による期末退職金要支給額を計上している

②賞与引当金の計上基準

職員の賞与支給に備え、次年度賞与支給見込み額の当期負担額を計上している。

3. 重要な会計方針の変更

該当なし

4. 法人で採用する退職給付制度

当法人では、独立行政法人社会福祉医療機構及び鹿児島県社会福祉協議会の退職共済制度を採用し、両退職共済制度からの給付金を退職金としている。

5. 法人が作成する計算書類等と拠点区分、サービス区分

(1) 法人全体の計算書類(第1号の1様式、第2号の1様式、第3号の1様式)

(2) 事業区分別内訳表(第1号の2様式、第2号の2様式、第3号の2様式)

当法人は社会福祉事業のみを実施しているため、作成していない。

(3) 社会福祉事業における拠点区分別内訳表(第1号の3様式、第2号の3様式、第3号の3様式)

当法人は拠点が1つなので作成していない。

(4) 社会福祉事業における拠点区分別計算書類(第1号の4様式、第2号の4様式、第3号の4様式)

(5) 収益事業における拠点区分別内訳表(第1号の3様式、第2号の3様式、第3号の3様式)

当法人は収益事業を実施していないため作成していない。

(6) 各拠点区分におけるサービス区分の内容

指定介護老人福祉施設

指定短期入所生活介護

指定通所介護

指定訪問介護

認知症対応型共同生活介護

居宅介護支援

在宅介護支援センター
本部

6. 基本財産の増減の内容及び金額

基本財産の増減の内容及び金額は以下のとおりである。

(単位：円)

基本財産の種類	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
土地	64,634,271	0	0	64,634,271
建物	338,339,176	0	24,011,551	314,327,625
合 計	402,973,447	0	24,011,551	378,961,896

7. 基本金又は固定資産の売却若しくは処分に係る国庫補助金等特別積立金の取崩し
該当なし

8. 担保に供している資産

該当なし

9. 有形固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、以下のとおりである。

(単位：円)

	取得価額	減価償却 累計額	当期末残高
建物	1,375,000	192,981	1,182,019
構築物	17,318,774	14,304,522	3,014,252
車両運搬具	15,851,949	15,851,938	11
器具及び備品	89,487,679	78,672,897	10,814,782
合 計	124,033,402	109,022,338	15,011,064

10. 債権額、徴収不能引当金の当期末残高、債権の当期末残高

債権額、徴収不能引当金の当期末残高、債権の当期末残高は以下のとおりである。

(単位：円)

	債権額	徴収不能引当金 の当期末残高	債権の 当期末残高
該当なし			
合 計			

1 1. 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益は、以下のとおりである。

(単位：円)

種類及び銘柄	帳簿価額	時 価	評価損益
該当なし			
合 計			

1 2. 関連当事者との取引の内容

関連当事者との取引の内容は次のとおりである。

該当なし

1 3. 重要な偶発債務

該当なし

1 4. 重要な後発事象

特に無し

1 5. 合併及び事業の譲渡若しくは事業の譲受け

該当なし

1 6. その他社会福祉法人の資金収支及び純資産増減の状況並びに資産、負債及び純資産の状態を明らかにするために必要な事項

予備費流用額	1,820,000
(内 訳)	
ソフトウェア取得支出	220,000
法定福利費支出	1,600,000
合 計	1,820,000

監査報告書

令和 5 年 5 月 25 日

社会福祉法人 脩 寿 会
理 事 長 林 田 功 様

法人所在地 薩摩郡さつま町
紫尾字下ノ原 4077-1
法 人 名 社会福祉法人 脩 寿 会

監 事 木原 成 孝 

監 事 二階堂 清一 

設置施設名 アルテンハイム鶴宮園
介護老人福祉施設・短期入所生活介護・通所介護
訪問介護・認知症対応型共同生活介護・居宅介護支援
電話番号 0996-59-8004

我々は、社会福祉法人脩寿会の令和4年4月1日から令和5年3月31日までの事業年度に関して、理事の業務遂行の状況及び社会福祉法人脩寿会の財産の状況について、令和5年5月25日に監事監査を実施し、その結果は下記のとおりでしたので、ここに報告します。

記

1 法 人 関 係 問題点なし。

2 経 理 関 係 問題点なし。

経理規程及び社会福祉法人会計基準に基づき、適切な経理事務が行われているか確認を行いました。

その結果、計算関係書類及び財産目録については、法人の財産、収支及び純資産の増減の状況を全ての重要な点において適正に表示しているものと認めます。

- 3 施設運営管理関係 問題点なし。
法令・通達等に基づき、適正に運営されている。今後とも利用者本位の事業展開を期待します。
- 4 職員待遇関係 問題点なし。
制度改正等の情報も共有されており、職員一人ひとりが役割や目標を持ち自主的・主体的に能力を発揮できる環境ができている。
- 5 入所者・利用者待遇関係 問題点なし。
施設関係の研修については、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策によりオンライン研修を中心に実施されており、例年同様充実した内容となっている。更なるサービスの質の向上に努めていただきたい。
- 6 そ の 他 令和 4 年度中、県等の外部機関による指導監査等の実施は、10 月 4 日に特別養護老人ホームアルテンハイム鶴宮園の指導監査が実施され、おおむね適正に運営されていることを確認した。
今後とも、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を万全に講じ、施設運営に努めていただきたい。